

休みの日  
白石絵本を楽しむ会編



昔の白石の日常生活における祭日や行事を、「白石絵本を楽しむ会」の皆さんが分かりやすい説明文をつけて紹介した貴重な手作り絵本である。「白石の忘れてはいけない行事・伝統」を継承するため、そして知る手がかりとなる数少ない貴重なお宝の一冊。内容は、お正月・小正月・ひな祭り・お彼岸・端午の節句(菖蒲節句)・早苗振り・夏越しのお祭り・お盆・十五夜さん・恵比寿講(十月二十日)など…。

・抜粋=おやつけどうふ(お厄介)

慶長7年12月片倉小十郎景綱は、伊達政宗から白石城主に任ぜられた。片倉のお殿様は10年以上亘理のお殿様だったので、年末の忙しい時に「厄介をかけた」と言って、豆腐を亘理の村民に配ったといわれている。この豆腐を田楽にして酒を酌み交わして別れを惜しんだといういい伝えもある。昭和に入ってから12月8日には、「おやつけどうふ」といって、申にさした豆腐を焗端でやいて味噌をつけて食べる習わしがあった。

片倉小十郎の城  
白石城跡発掘調査報告書  
(白石市文化財調査報告書第26集)



白石城の調査に至る経過と関係資料、調査・整理方法、発見された遺構・遺物、白石城解体のいきさつなどが収録されている。 ※付図：白石城下絵図等9枚

白石地方の言葉 ■ 片倉 信光 著



昭和30年代の日常会話の中で、挨拶として「おみょうにち」、夜は「おばんなりし(す)た」・「おばんかたです」、店に買い物に行った際は、「くない!」(くださいという意味)と節をつけて決まり文句のように口上を述べていた。

本文中に談話として、「白石地方の言葉」の特徴が載っている。

・白石の御家中の人々は、言葉はくずれているが、非常に丁寧な言葉遣いをしていた。

・商家の大きい所は男女ともに御家中のような丁寧な

言葉で、仙台より福島伊達郡信夫地方との縁組みが多く、福島言葉が入っている。

・白石言葉の範囲 白石を中心に一里四方位。北は深谷、南は大平、西は小原くらいまで。刈田郡の七ヶ宿は山形圏。越河、斎川は伊達藩。

・あいうえお順に上段の「方言」、下段に「現在の意味」が記載されている。

考古学者で郷土研究者でもあった片倉信光氏が、生前収集した方言などを遺族の方々が、「このまま埋もれてしまうのはもったいない。何とか本として出して後世に残したい」との強い思いで、表紙の絵は吉見庄吉氏、カットは片倉信光氏の孫正田和子氏、題字は正田正應氏、浅井宣夫・浩子夫妻などの支援で発行されたものである。

方言(言語=話言葉)は、過去と現在を繋ぐ大切なツールとしても興味深く、郷土愛を育み、「ふるさとを感じる」そのもの。必見の一冊である。

目で見る仙南の100年 ■ 吉岡 一男 監修 郷土出版社



白石市を含めた珍しい350枚の写真が語る仙南地方100年のドラマ写真集。生活感あふれる懐かしい写真から、明治・大正・昭和の激動の一世紀が、今よみがえる！ 詳しい解説付きの「見て読む」郷土史である。

明治時代

白石町役場・白石郵便局・白石警察署・日露戦争時の白石停車場・発電所の完成・製麺工場・桜場株式会社・公立刈田病院・鎌先温泉旅館鈴木屋・自転車競争優勝・横綱大砲万右衛門・白石製糸機業(工場内部)・白石町立第一小学校・私立刈田中学校主の告別式記念・刈田中学校の生徒たち

大正時代

白石停車場竣工・岡崎ホテル前の乗り合い自動車・白石商業銀行・鎌先温泉の湯治客・白石輪友会主催自転車競走会・結婚式写真

昭和戦前

斎川宿の自動車・宅扱い宣伝ポスター展示会・温麺の製造所・スケート・寿町の山車とのらくろ・旅館軒下の野菜売り・タバコを吸う練習をする乙女ふたり・白石幼稚園・第26回卒業の成美寮生と第6代校長・農業実習体験・白石高等女学校優勝・稚児行列・出征の日を迎えて・出征兵士の見送り・国民学校職員勤労奉仕隊・益岡公園での白石中学校生徒・薙刀訓練・桜井先生壮行式・学童疎開・学童疎開先で勉強に励む子どもたち・疎開児童の皇居遙拝



▲白石高校の甲子園出場写真

昭和戦後

白石高校の甲子園出場決定・第1回ミス白石・七夕祭りと白石本陣角・諏訪神社の御柱祭・郷土玩具こけしの絵付け・水田での農作業・女性もコンバインを運転・ころ柿づくり・東北新幹線開業・白石城三階櫓の復元工事・白石市民春まつり

郷土資料ってどんな本？

図書館2階にある「郷土資料室」は、平成16年、市制施行50周年を機に設置し、広く郷土資料(白石市や宮城県、東北に関する本)を収集し、多くの市民の皆さんに利用してもらうことにしました。片倉小十郎に関する本はもちろん、白石市や宮城県、東北在住、また、本市にゆかりのある人が書いた本、市町村史(市や町の歴史・特産物・遺跡などを掲載)などを取りそろえています。

郷土資料だけではなく、白土城や和紙、甲冑など、白石市に関係のある本、さらに、行政資料(議会録や予算書、広報しろいしなど)も取りそろえ、歴史や史跡、民話、産業などに関する本を、詳しく調べることができます。 「郷土資料室」は、「郷土のこともっと調べたい」という皆さんのための場所です。資料の中には、貸し出しができません。館内閲覧のみの資料も含まれています。分からないことやお探しの本は、気軽に図書館員にお問い合わせください。

もめんもずら(布絵本) ■ 鈴木 智恵子 著 作制



この布絵本は、昔の子たちのいろいろな遊びを布絵本にしたもの。遊び歌も記載され、何よりも布で遊び方や遊んでいる様子がいきいきと描かれ、昔の良い時代を思い出させてくれるすばらしい作品。 「もめんもずら=まりつき遊び」 「大波小波・おめでつせ=なわとび遊び」

「どんどん=どんどん=ちやくつき遊び」 「なんこなんべ=かずあて遊び」 「ぼうさんぼうさん=人あて遊び」 「大こくさまという人は、一かけ二かけ・うちのこんぺんとさんは=ふりをつけたうた遊び」 「じっちとばっばさま=手をたたきあつて遊ぶ」 など

郷土物語 白石地方の歴史(上・下) ■ 阿子島 雄二 著



郷土のものしり百科。白石地方でのさまざまな出来事を時代を追って詳述した82篇を収録したもので、一読すれば白石地方の歴史が理解できる。冒頭に「なだ(鉦)で頭(あだま)をそ(剃)るが 裸(はだ)がでいばらを背負うが刈田(かった)で百姓をするが」=白石の民謡より=のくだりがあり、本文に引きこまれ、本の

裏表紙に昔の子供たちの遊びの種類や様子が描かれ、各時代の生活などが偲ばれる。記述は簡明で豊富な写真・図版200点余りは一層理解を深めてくれる。歴史のうちでも地域史は、足で調べなければならない。この本を手がかりに、郷土白石を探求してみようか！ 歴史は「未来の道しるべ」である。

白石市や宮城県、東北に関する「郷土資料」の数々  
図書館2階にある「郷土資料室」は、「郷土」を知ることができる大切な場所